

「消防団の力向上モデル事業」 事業紹介

事業名

消防団活性化事業

自治体名

和歌山県和歌山市

消防団名

和歌山市消防団

1 事業の目的・必要性

【目的】

モデル的な水防訓練、車両取扱訓練を実施することで、消防団の活性化を図る。

【必要性】

多発化・激甚化する災害に適切に対応するため、消防団自体のスキルを向上させ、常備消防との連携度を高める必要があります。

2 事業内容

成果報告書の内容を簡潔に記入してください。

【水防訓練】

例年、実施している土のう作成、水防工法など水防の基本的な訓練を常備消防とともに実施するのに加え、災害救助ボートに代用できる小型ボートを導入し、取扱訓練の実施や大規模災害を想定したワークサイトトリアージ訓練の実施。また、消防団員の活動服、雨衣、長靴はスタイリッシュなものにモデルチェンジすることで、団員の士気高揚を高める。

【車両取扱訓練】

消防団車両と（積載）可搬ポンプの取扱訓練を実施、講師に自動車修理工場を営む消防団員を迎えて訓練を実施し、車両の取扱いや本市で頻発しているバッテリー上がりを解消するため充電器を用いた充電方法を指導していただく。可搬ポンプメーカーを講師に招き、吸水～排水処理までの手順を指導していただく。



3 事業成果

改善された事項や具体的な数値等を記入してください。

【水防訓練】

本訓練では、例年の訓練内容（土のう作成、水防工法）に加え、小型ボートの取扱い訓練やワークサイトトリアージ訓練を取り入れ、常備消防と消防団が連携しながら訓練を実施したことで連携度を向上させるとともに消防団の技術の引き上げることができました。

また、消防団の士気高揚や活性化を図るため、機能性に富んだ装備（活動服、雨衣、編上げ長靴）に新しくモデルチェンジし、消防団員としてのモチベーションの向上を図りました。

【車両取扱訓練】

本訓練では、和歌山県自動車整備科職業訓練指導員の消防団員を講師とすることで、自らの装備は自前でメンテナンスすることを意識付けさせました。特に、本市で頻発するバッテリー上がりに分団のみで即時に対応できるように、パルス充電のできるバッテリー充電機を使用して、バッテリーを正常に戻し、バッテリー寿命を伸ばす方法をマスターしました。また、企業（可搬ポンプメーカー）に、訓練をサポートしていただいたことで、始動～吸水～放水～排水処理といった一連の流れを丁寧に講師から学び、レベルの高い訓練となりました。

4 目標達成状況

事業提案書（様式1）アウトプット成果指標の結果を記入してください。

| 指標 | 単位 | 当初目標 | 実績値 | 備考 |
|-----------|----|------|------|----------------------------------|
| 水防訓練・団員研修 | 回数 | 各1回 | 各1回 | ※訓練では、参加者のほかにも、見学者（消防団員）が多く訪れました |
| 参加者 | 人数 | 200人 | 200人 | |
| 検討会・打合せ | 回数 | 2回 | 2回 | |

5 その他参考情報

他自治体に参考となる情報を記入してください。

【ワークサイトトリアージ訓練（水防訓練）】

ワークサイトトリアージとは、救助活動の優先度が高いのかを判断するために用いられる手法で、大規模災害時において、常備消防と消防団が連携、協力し、同手法を用いることで、より効果的な救助活動に発展させようと考えています。